

謹賀新年



平成31年 己亥之歳



教主・大阪本部長様



発行所
宗法 寶生教大阪本部
大阪市西區北堀江3丁目10番
電話 06(6531)6722
FAX 06(6531)6152
© (非売品)

1月号

自家成立の
根源は和にあり
秩序の根源は
神祖崇敬より

元旦『年頭のあいさつ』 教主 山本晃道

皇紀二六七九年、平成三十一年、己亥の年、新年明けましておめでとうござい
ます。
教信徒の皆様、ご参拝の
皆様にはお健やかに新春を

お迎への事とお慶び申し上げ
ます。
旧年中は熱意溢れる教信
徒皆様のご奉仕のおかげで
各教会行事も恙なく執り行
う事が出来ました。

又、御教祖ご生誕百五十
周年だった昨年、御本宮春
の大祭後に久方ぶりに御本
宮、大阪、東京、中京各本
部が共々に神賑い行事とし
て福当抽選会を行いました
事は寶生教の将来にとりま
して意義深い事であったと
存じます。

さらに広く社会に目を向
けますと六月九月にかけて
地震や豪雨などの自然災害
により各地において甚大な
被害が発生し、尊い生命を
落された方々も多くおられ
ました。

まさに自然の力の前では
いかに人間が無力か思い知
らされました。

政治・経済面では安倍首
相の憲法改正論議の足を引
つ張る左派野党の存在。

大手企業トップの背任行
動による逮捕。
外国人労働者受入れ法案

の変更。
外交面では米、北朝鮮の
首脳による直接会談。
韓国による徴用工賠償請
求。

国防では沖縄の基地問題
など私達の祖国日本を取り
巻く内外の環境は大変に厳
しいものがあります。

しかし一方では平昌五輪
での日本選手団の活躍や本
庶博士のノーベル賞受賞な
ど嬉しい報道もありました。
悲喜交々と云った一年で
はなかつたかと存じます。

そしていよいよ本年は、
天皇陛下が皇太子殿下に皇
位を譲られ「御代がわり」
が行われ平成という時代が
終わりを告げようとしてい
ます。

この事は私達日本人に
とつてとても重要な事なの
です。

なぜなら私達の日本は天
皇陛下を中心とした国家、
国民であり天皇陛下が日本
人の本質をこれまで、こ
れからも具現化して下さっ
ているからです。

その「御代がわり」の中
心的な行事の一つに本年十
一月に行われる「大嘗祭」
がございませう。新天皇が即
位されて最初の「新嘗祭※」
を大嘗祭と呼び特別な御殿
を建て、日本全国から最上
の様々な献饌品が供えられ

新天皇が御自ら神々に仕え
られる格別の祭儀です。
それらの献饌品の中に、
今ではほとんど我々が口に
する事のない「粟」や「ひ
え」なども含まれています。
この事は、万一何らかの
自然変動で主食の稲が不作
であっても国民の生活を守
るものとして災害対策の目
的も大嘗祭の祈りに含まれ
ていると云われています。

私達の暮らす日本列島は
時に自然災害により大きな
被害を受けます。
そう云った場所に暮らす
日本人の共同体が上手く保
たれる様に二千年前の古来
より日本で続けられている
のが大嘗祭に代表される様々
な宮中行事、宮中祭祀なの
です。

そして、それらの宮中祭
祀は全て神道行事なのです。
神道の根幹は「自然との
共生」と八紘一宇※を基と
する「共存共栄」です。

賢明な皆さんはすでに、
前述した現在の日本が抱え
る様々な問題も神道の精神
で事にあたれば穏やかに解
決に近付ける事にお気づき
でしょう。

私共、寶生教の信仰は樂
をする為のものでもなけれ
ば、自分達のしあわせを祈
るだけのものでもないはず
です。

私達の信仰が自然を守り日本人の良き精神性を守っていく事に誇りを持ち、他者の為にも祈れる程の物心両面のゆとりを持ち得れる様に大神様、ご祖先様にご守護いただきながら、それぞれに与えられた勤めを果して参りましょう。

本年が皆様にとりまして幸多き年である様、心より祈念申し上げ年頭のあいさつと致します。

※新嘗祭(いになめさい)
・毎年十一月二十三日に行われる。天皇自ら、その年の新穀を神に捧げる祭典。

※八紘一宇(はつこういちう)
・初代神武天皇が奈良橿原宮で即位された際に以下の神詔を発せられた。「八紘(あめのした)をおおいて宇(いえ)と為(せ)ん」と、またよからずや」。意は「天下全てを一つの家として、共に榮えていこう」。

「元元本本」日本の根本を大切に

月並祭 (11月15日)

十一月二十三日は、勤勞感謝の日です。では何故この日が勤勞感謝の日で祝日なのか。それは皆様よくご存知のように、新嘗祭が執り行われる日だからなのです。此の事を知っていないと、祝日の本来の意義が伝わらないですよ。

十一月二十三日は、勤勞にも載っています。新嘗祭の中でも天皇一代に一度だけ執り行われる、大嘗祭とは一体何なのか。國學院大学神道文化学部教授、岡田莊司先生の言葉を借りれば、それは「日本列島に暮らす者の生き方の表れだ」といわれております。

大嘗祭とは日本中を挙げて一代一度の神祭を協賛する、という意味合いもあるそうです。更に、それらの神饌の中に、昔の庶民の食べ物である粟も含まれているという事は非常に注目すべき点だとも云われています。

その新嘗祭の中でも、天皇陛下が即位されて初めて執り行われる新嘗祭を、特別に大嘗祭といえます。

日本列島各地で古代から神々に神饌や幣帛を奉り、豊かな稲の実りや人びとの幸せを祈る、「としごいのまつり」とも云われる二月の祈年祭。そして十一月二十三日の新嘗祭といった祭祀が、私共の日本では遙か昔の古代から、連綿と続けられているのです。この様なことは、十世紀に編纂された『延喜式』という書物

私達の祖国日本は、農耕国家です。同時に大変自然災害の多い国でもあります。この災害の多い列島で暮らす人びとのために、新天皇自らが祈りを捧げ、単にその祭祀を執り行うというだけではなく、国民と共に天皇があるという事を示すのが、大嘗祭の姿だと云われています。

大嘗祭で供えられる神饌は、特別に選ばれた田で作った稲をはじめ、そのお米でつくられた黒酒、白酒と目になるかも知れない。その意味は、先程も申し上げたように、日本は災害の多い国です。今年のように、いつ台風で田んぼが駄目になるかも知れない。その

御本宮 月並祭

毎月第一日曜日 午前十一時半より

埃を払い清々しく「年末すす払い」好天に恵まれ



すす払に合わせ、献饌米を俵に。

年の瀬迫る十二月十六日曜日、恒例の年末すす払いが行われました。冬の陽射しも柔らかく差し込み、御蔭様で好天のもと、朝拝参拝後、本部教会境内各所、心を込めて清掃奉仕致しました。

又この度は、普段修行殿広間等を利用しておられる教信徒以外の皆様もご参加下さいました。

更に御饌米の俵も出来、三階拜殿東西に供えられ、心身共に清々しく、新年を迎える準備が整いました。



窓ガラス、網戸もきれいに。

迎える準備が整いました。締め括りに、教会婦人部特製カレーライスを美味しく頂き、解散となりました。大勢のご奉仕、有難う御座いました。

ういつた時の非常食として、稲だけではなく、粟や稗などの穀物も生産し続けてくださいよという、天皇陛下からのメッセージが込められているのです。

豊草原瑞穂の国と表現します。これは『古事記』の中で神様がその様に仰ったのです。正に「非常に豊かで瑞々しい稲穂の繁る素晴らしい国」という意味でございませぬ。

式です。そして、翌五月一日、皇位継承の証である「三種の神器」(八咫鏡、草薙剣、八咫瓊勾玉)を譲り受け渡す「剣璽等承継の儀」が行われるのです。

宮中祭祀というと、我々国民とはかけ離れた話に思えるかも知れませんが、実は、日本国家の安寧、又私達国民のしあわせな日常生活を天皇陛下自らがご祈願して下さっているのです。

神代から続く日本の美しい姿を将来へ繋いでいく。又日本という国を守り抜いていくという事を、象徴的に現したのが、大嘗祭であると云えるのではないのでしょうか。

続いて、新天皇が三種の長と面会される「朝見の儀」。又十月には祝賀パレード、首相夫妻主催の晩餐会等が行われるようです。

扱、伊勢神道では、「元元本本」という言葉が伝わっています。これは、「原

礼」という儀式が行われます。正式には「退位礼正殿の儀」と呼ばれます。これは、今上天皇が皇太子さまに位を譲ると宣言される儀

元号。これは政府に任せたくないという意図が、元号とは何なのだろうか。

元号とは、東アジアの国々で年を表現する一つの方法です。昔は多くの国で用いられていたようですが、現在は日本のみで用いられている表現なのです。しかし現在の日本では、

西暦と併用されています。西暦はキリストが復活した日から年を数える表現方法です。昔からキリスト教を信仰する国で用いられるのは極当たり前の事ですが、神道の国日本では、古来使用している元号だけを使えば良いのです。

ご教話 正しい政教分離の教え方を持つ

祭並月 (12月1日)

皆様こんばんは。早くも暦は「師走」。本年も残すところ一ヶ月となりました。それぞれにご多用の所、ようこそご参拝下さいました。扱、新聞等のメディアでは、秋篠宮さまが来年の「大嘗祭」についておことばを述べられたとの報道がございました。

その内容は、大嘗祭という儀式そのものが、日本国憲法の「政教分離」という面から考えると、宗教色が強いのではないかと。更に、二十二億円とも試算されている費用についても、国費ではなく、宮中に割り当てられている私的な費用から支出するべきではないか、という旨のおことばでありました。

私などは、少し残念なことを仰ったなという気が致しました。このご発言について、産経新聞の「主張」の欄で「大嘗祭 国費でつ

つがなく挙行を」という題で取り上げられて居りましたので紹介致します。「来年の皇位継承に伴う大嘗祭について、秋篠宮さまが記者会見で、皇室の公的活動を賄う国費（宮廷費）を充てることに疑問を示された。」

『宗教色が強い』『国費で賄うことが適当かどうか』として、憲法の政教分離原則を念頭に、天皇ご一家の私的活動費である内廷費を充てるべきだとの考えを示された。『身の丈にあつた儀式』とするのが『本来の姿』とも指摘された。

政府は平成の御代替わりの例にならつて、来年十一月の大嘗祭に国費を充てることをすでに決めている。西村康稔官房副長官は会見で、政府方針に変わりはないことを明らかにした。

大嘗祭は、新天皇が初めて行う新嘗祭で、国家国民



教会西側のビルがなくなり、南西より御本殿・修行殿の壮麗な佇まいが望めます。(平成30年9月撮影)

の安寧や五穀豊穡を祈る一世一度の祭祀だ。」皆様よくご承知置きの通り、新嘗祭は十一月二十三日、現在の勤労感謝の日に執り行われる祭祀です。天皇陛下自らが祭主をお

勤めになり、皇居内の社殿に於いて、その年に収穫した新米を始めとする穀物等を、天照皇大神をはじめ、八百万の神々に捧げお召し上がりいただき、陛下自らも同じものを食される、という祭儀です。その新嘗祭の中でも、天皇が即位の礼の後、初めて行われる新嘗祭を、特に大嘗祭と呼ぶのです。この大嘗祭が、日本、そして日本国民にとつていかに重要な儀式であるかは、申し上げるまでも無いことかも知れません。

「即位の中核的な行事であり、国費の支出によってお支えしたい。憲法の政教分離に触れるという懸念は当たらない。平成の大嘗祭に対して複数回の訴訟があつたが、政教分離に反しないとの最高裁判決が確定している。」

政教分離は政治権力と宗教の分離が目的である。天皇や皇族は権力を持たないし、宗教団体を擁さない。秋篠宮さまは、政教分離の原則に因つてこの度の大嘗祭について懸念しておられるのですが、政教分離というものの見方、考え方を、皆様の中にも勘違いされて

「大嘗祭をはじめとする宮中祭祀を一般の宗教と同列視して、私的行為と見なす必要はないのである。祈りは天皇の本質的、伝統的役割といえる。大嘗祭を含む宮中祭祀を、日本に位置づけるべきだ。」

天皇陛下の一番重要なお仕事は何でしょうか。それは正に、日本の神々にお仕

いる方が居られるかも知れません。政教分離とは、例えば、日本国家が神道行事を行うことを禁止している訳ではありません。正しくはその逆で、政治が宗教を利用、悪用することを禁止するものなのです。

そして、記事の中にある、「天皇や皇族は権力を持たない」という部分。これは一体どういうことかと申しますと、例えば、天皇陛下をはじめ、皇族の皆様は、私達国民が持つ選挙権や被選挙権がありません。つまり、選挙に投票することも出来なければ、立候補することも出来ないのである。

更には戸籍もありません。そして、移動の自由も無いれば、結婚の自由も無い。一切の権利、権力をお持ちでないのが、日本の皇室家なのです。

えすることなのです。ということは、神道に於ける最高の祭祀者が天皇なのです。その天皇が祭主をお勤めになる訳ですから、新嘗祭、大嘗祭は日本にとって大変重要で、皇室の私的な行事でも無ければ、宗教色が強いという訳でもないのです。「費用を節約し、行事を簡素化しよう」と促された秋篠宮さまのご発言は、国民の負担をできるだけ少なくしようというお考えとして受け止めたい。

長い歴史を振り返れば、戦乱期など大嘗祭が行われなかった時代もあった。つ

つがなく行えるのは日本が栄えている証しである。国民は、天皇陛下の即位に伴う重要な儀式として平成の大嘗祭を見守った。来年についても同様である。秋篠宮さまのご発言に対して、天皇や皇族が控えられるべき政治的発言ではないかとの指摘があるが、見当違いだ。皇室のご活動に關わる重要な事柄に天皇や皇族が考えを示されるのは当然であり、封じ込められるべきではない。」

繰り返しになりますが、この記事からもよく分かるように、大嘗祭は日本にとつて、そして日本国民にとつて非常に重要な宮中祭祀でございます。新たに即位される天皇を、全国民挙げてお支えするという節目の儀式であるとしておられました。この様に日本の伝統を守り、自国の民族性を守ることが非常に重要です。民族性を失ってしまうと、自分達のよりどころを失ってしまうのです。そういった事を考えますと、来年の皇位継承に伴う大嘗祭は国を挙げて、国費を充てて執り行うことこそ

節分厄除祈願祭(豆まき神事)

二月三日(日)午後七時開祭

厄除け祈願 申込み受付

よからぬことが多いと言われる、人生の節目である厄年。厄除祈願をなさって御神幣の御神威を身体にお受けになり、災難なき安心した日々をお過ごし下さい。

※厄除け祈願申込みは、二月一日までに、申込幣帛料(壹万円)を添えて、教会事務所へどうぞ。

祝祭日には必ず国旗を掲揚しましょう

身体健固 無病息災 祈願



奉納 受付

教会所定の「人形」に各自の氏名年齢を記し、身体健固、無病息災の祈念をこめて、各自の息を吹きかけて、二月三日の節分祭までに教会へ納めて下さい。

また、昨年度の月並運勢の御神幣も一緒に納めて下さい。教会で焼燭招福祈願いたします。

教会行事

一月 一日(祝)	元旦祭	午前十一時
三日(木)	支部新春来参式	午前十一時
六日(日)	御本宮初月並祭	午前十一時半
八日(火)	御本宮遙拝式	午前九時
	お鏡開き式	午前十時
	初修行	午前十一時、午後七時
	○修行後、健康祈願の「おぜんざい」を戴きます。	
九日(水)	修行	午前十一時
	初教祖祭	午後七時
十三日(日)	西播教会初修行日	
	とんと焼き	
十四日(祝)	青年部初顔合わせ	
十五日(火)	初月並祭	午後七時
十六日(水)	宝生会(花屋敷GC)	
二十日(日)	養老教会初修行日	
二十五日(金)	修行日	午前十一時、午後七時
二六日(土)	大阪近郊各地区合同敬和会	
二七日(日)	名古屋地区敬和会	
二月 一日(金)	月並祭	午後七時
三日(日)	節分厄除祈願祭	午後七時
	○厄除祈願祭に引続き、節分・豆まき神事が行なわれます。	
	○撤饌として福豆を授与いたします。各家の災難、病難除け等としてのご守護がございます。	
八日(金)	修行日	午前十一時、午後七時
九日(土)	修行	午前十一時
	教祖祭	午後七時

『建国記念祭』

二月十一日(祝) 午前十時半

— 日本国と皇室の安泰を祈りましょう —

寶生教 国旗掲揚運動